

# 熱田小児科クリニック掲示板

## 6月のテーマ

### 『溶連菌感染症について』

(医)熱田小児科クリニック「ひまわり」スタッフ

溶連菌感染症の症状は？

症状の代表的なものは、**発熱**（38～39℃）と**のどの痛み**です。しかし、3歳未満ではあまり熱が上がらないと言われています。そして、体や手足に**小さくて紅い発疹**が出たり、舌にイチゴのようなつぶつぶができたりします（**イチゴ舌**）。そのほかに頭痛、腹痛、首すじのリンパ節の腫れもみられます。急性期を過ぎますと、発疹のあとには落屑（皮むけ）が認められるようになります。風邪と違って咳や鼻水が出ないということもあります。この病気には潜伏期間があり、実際に感染してからだいたい**2～5日**で症状が出ます。

溶連菌感染症は、繰り返しかかることもあります。大人になってもかかります。日常生活の中で出る咳やくしゃみなどによって近くの人に感染（**飛沫感染**）することがあります。また、溶連菌に汚染された食品が原因になることもあります。一人がかかったら家族、特に一緒に遊んでいる兄弟への感染に注意が必要です。

お薬について

お薬を飲み始めると、2～3日で熱が下がり、のどの痛みもやわらいできます。発疹が出た場合、急性期を過ぎて、手足の指先から始まる落屑(皮むけ)が認められるようになります。確実に溶連菌を退治し、重大な続発症(合併症)を引き起こさないために、症状が消えても抗菌薬はしばらく飲み続けなくてはなりません。医師の処方通りに最後まで飲ませることが大切です。

家庭の中で気を付けることは？

(食事面)

「熱い」、「辛い」、「すっぱい」といったのどに刺激の強いものは避けてください。なるべくのどごしがよく、消化の良い食べ物にしてあげてください。食べるのがつらいようでしたら、水分だけでもしっかり摂れるよう心がけてください。その場合も炭酸水といったのどに刺激を与える飲料水は避けてください。

(入浴面)

熱が下がれば、お風呂に入っても特に問題はありません。